

一般財団法人京都ユースホステル協会

2023年度事業計画書

期間:2023年4月1日~2024年3月31日



“ Say Hi to the world ” ~旅の持つ力~

若者が世界（旅）の扉を開けて学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内
TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289
URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目次

目次	2
はじめに	3
国際ユースホステル連盟採択基準	4
京都ユースホステル協会が目指すカタチ	5
事業活動	
I. ユースホステル活動	6 - 7
II. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	8 - 9
III. ユースホステル関連活動	10 - 11
IV. 天橋立ユースホステル	12
V. 組織運営	13
予算概要	14 - 15
組織概要	16

はじめに

2020年に始まったコロナ禍での生活が4年目を迎え、感染拡大を予防するための人流や行動制限、出入国の規制が大幅に緩和されるなど、生活や経済の回復が加速しつつあります。

一方で、コロナ禍でのオンラインでの在宅勤務や学習などにより、AIやネットが進化しこれまでの日常の生活に変化を生み出し、コロナ禍前とは違った社会や日常へ変わりつつあります。

また、世界的な新型コロナウイルス感染予防のための出入国の規制が緩和されて以降の各国での人の動から、こうした状況が生まれたとしても「国境を越えた人や物の移動や交流といった社会のグローバル化は後退することはない」と言うこと、ウクライナ紛争等によるエネルギーの高騰や紛争への支援は、相互のつながりや影響がより強くなっていると感じます。

そうした状況を認識し、当協会の2023年度の指針として下記の項目を掲げ取り組みを進めます。

1. コロナ禍を乗り越え持続可能な運営を維持するための施設利用や経常収支の改善
2. コロナ禍後の変化する生活や社会に対応したユースホステルの新しい価値や意義を創造、提供し、発信すると共に、それにマッチする新たな利用層等を開拓する
3. 経済回復期の人材確保や育成と進化する技術を活用していくための運営や組織の変革

これまでも厳しいコロナ禍での収支や運営の改善、事業等の見直しを行ってまいりましたが、経済や日常等の回復がより鮮明になりつつある中で、施設利用や人材の獲得競争等の厳しさが増すことが予想されます。

また、指定管理の施設運営の条件が厳しくなる中、施設や活動の現状維持や停滞は、ユースホステルの衰退だけでなく存続の危機を招くと考えております。

今後も厳しい状況が続きますが、使用料の改訂他の運営改善に向けた京都市担当課等との交渉を継続すると共に、コロナ禍後の生活や社会の変化に対応し、危機をチャンスに変えるための変革への挑戦を通じて、当ユースホステル協会の次の時代を切り開く新たな1年としてまいります。

関係者のみなさまにおかれましては、こうした変革、挑戦に対しまして引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

専務理事 高田光治

ユースホステル活動の現代的解釈

『3つの原則と4つの価値基準』

《3原則》

I. 「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- ・ 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- ・ 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- ・ 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- ・ 違いや多様性の尊重
- ・ 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

II. 「学ぶ権利」の原則

- ・ 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- ・ 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- ・ コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- ・ 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- ・ 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

III. 「持続可能性に対する義務」の原則

- ・ 持続可能なツーリズム活動の推進
- ・ 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- ・ 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- ・ 地域社会への貢献／フェアトレード

《4つの価値基準》

I. 利用し易さ（Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

II. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

III. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

IV. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

京都ユースホステル協会が目指すカタチ

say **HI** to the world - 旅の持つ力 -

若者が世界（旅）の扉を開けて 学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

約 100 年前、経済的格差や公害問題などの健康被害による学びや気づきの機会損失を憂いたドイツ人教師“リヒャルト・シルマン”が、そういった社会環境の中で子ども達を野外に連れ出し、「移動教室」という新しい手法で子ども達の学びや気づきを取り戻しました。ユースホステル運動の始まりです。

現在、3年以上にも渡るコロナ禍において、また今後のウイズコロナの時代において、様々な場面で制限や制約を求められ若年層がストレスや閉塞感を感じている実態が浮き彫りとなっています。また、この状況はリモートやバーチャルを一層加速させることとなり、人と人とのつながりの希薄化を招いています。

そういった環境変化の中で、まさに今、私たちはユースホステル運動の原点（スピリット）に立ち帰り、青少年に新しい学びの機会やスタイルをリアルに提供することで、ユースホステルが社会的課題に寄与できるものと考えます。

事業活動) 1. ユースホステル活動 (青少年・旅行事業)

コロナ禍からの社会経済の回復が進む今年度は、対面的な交流の機会を提供することができる、ユースホステルでの宿泊を伴う事業の充実に取り組みます。その中でも特に若者たちが健やかな学生生活を送れるようなプログラムの実施を目指しています。

心の健康を害しているかもしれないソーシャルメディアの間違った利用や、コロナ禍での若者らしい時間の過ごし方の減少など、様々な要因で彼らが成長するために必要な「信頼関係」を構築することが難しくなっております。そのような若者たちに向け、チームビルディングプログラムを用いた信頼関係づくりの為に宿泊事業を計画し、提供いたします。

また、旅に出る機会に恵まれない青少年に旅を贈る「Say HI for Peace」事業を継続して実施すると共に、ネイチャーキッズなどの青少年プログラムについても引き続きサポートし、若い世代の気づきや学び、成長につながるユースホステルを活用した体験の機会を広く提供してまいります。

[事業分野別目標]

- イベント・事業活動参加者数 : 延 35,240 名 (22年度実績見込み : 34,213 名)
- 青少年対象事業の参加者数 : 延 4,500 名 (" : 4,303 名)
- 新規・継続含め青少年支援につながる宿泊プログラムの実施 : 4 企画

[活動内容]

1. 青少年を主な対象としたユースホステルでの宿泊を伴う事業や活動の強化

・ ユースホステルでの宿泊体験学習プログラム (新規)

若者を対象にした信頼関係づくりのためのチームビルディングプログラムに、焚火と宿泊を組み合わせた宿泊体験学習を実施。学校やクラブ、グループなどを対象とする。

・ 青少年団体や野外関連団体などと連携した宿泊を伴う事業の充実 (新規)

ユースホステルとの協同が可能な団体と連携し、宇多野ユースホステルのフィールドを利用した新たな宿泊プログラムについて提案し、ユースホステルを使った事業を誘致する。

・ Step up Camp

キャンプや野外調理などに興味を持つ家族やグループに向け、スキルアップを目指す宿泊企画として、アウトドア初心者向けの野外体験プログラムの実施。

・ Say HI for Peace ～ユースホステルから旅を贈ろう～事業

様々な理由で旅に出る機会に恵まれない青少年に、野外体験などのプログラムを含めた、ユースホステルの旅を贈るプログラムの継続実施。

実施時期	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計
2022年度見込	80名	57名	20名	50名	207名
2023年度目標	90名	60名	40名	60名	250名

2. ユースホステルを利用した交流や体験活動の取り組み

・ ワールドディナー交流会（新規）

宇多野ユースホステルで行われるワールドディナーに合わせて、その国にまつわるイベントやマルシェ、音楽演奏等を開催するなど、相互理解や交流促進につなげる内容の充実や満足度向上へ取り組みます。

・ インターンや中高生の受け入れ事業

大学コンソーシアムやドイツ IJGD、台湾南台科技大学、ノーステキサス大学よりインターン受入れの他、鳴滝総合支援学校の技能実習や中学校のチャレンジ体験の受入れなども積極的に行い、彼らの学びや成長を応援するユースホステルでの体験実習の機会を提供する。

・ 国際交流のアレンジ等の取り組み

海外から訪日する学校グループと地域の学生との国際交流をアレンジする他、宇多野ユースホステルで宿泊する団体同士の交流の機会を提供するなど、ユースホステルの価値や魅力を発信し宿泊利用の増加にもつなげる。

・ うたのユース Open Day の実施

地域のマンパワーを活かし、ユースホステルが地域連携や地域活性化にも貢献できる取り組みとして、マルシェや体験学習、地域 PR などが盛り込まれた事業を年間 2 回実施する。

・ 焚火庵

宇多野ユースホステルの中庭を使った焚火事業の継続実施と、焚火庵をベースにした講演会やワークショップ、交流会などを開催する他、実施協力の連携団体を増やし事業の充実を図ります。

実施時期	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2022 年度参加見込	493 名	404 名	814 名	315 名	2,026 名
2023 年度参加目標	500 名	450 名	850 名	350 名	2,150 名

3. 活動団体と連携、共催する体験活動の継続実施や支援

以下の事業について引き続き実施をサポートしてまいります。

・ まいまい京都 2023

まちの魅力再発見と地域活性、「歩くまち・京都」の推進を目指す、スペシャリストと歩く京都ミニツアーの実施・支援。

・ ネイチャーキッズ

多世代交流を目的に大学生のボランティアリーダーが主体的に考え活動し、小学生を対象に年間を通じた実施する野外活動プログラム。

・ ガリレオサイエンス教室

理科実験を通して、子どもの自主性や協調性を育むプログラム。考え抜く力と自己も他者も認められる強さを育みます。

実施時期	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
2022 年度見込	9,058 名	7,462 名	9,090 名	6,370 名	31,980 名
2023 年度目標	9,300 名	7,680 名	9,360 名	6,500 名	32,840 名

事業活動) II. 宇多野ユースホステル (施設運営)

2023年度は、4年間の新たな指定管理期間の始まりの年となります。長引くコロナ禍で利用が落ち込みましたが、社会や経済の回復がこれまで以上に期待できる復活の第一歩として、ユースホステルを差別化できる「体験や出会いがある施設」「地域の価値や暮らしを尊重し、持続可能な観光や社会貢献にアクセスできる施設」「人種や国籍、宗教や信条、身体的ハンディ等に関わらず安価で安心安全に宿泊できる施設」を掲げ、施設としてのユースホステルの長を伝える中で、個人から団体、インバウンドの回復も視野に入れ、ユースホステルの良さが活きる対象に焦点を当てるなどの戦略的なアプローチを進め、幅広い層の利用回復や新しい利用層の開拓と収益の改善に努めます。

また一方で、コロナ禍を経て改めて旅を含めた出会いや交流、発見や気づきなど、とりわけ若い世代にとっての直接体験の大切さを再認識することとなりました。そうしたことから、社会生活や対人コミュニケーションの不安といったコロナ禍で生まれた青少年の社会的課題にも対応した中間支援組織との連携事業や宿泊型のプログラム企画など、ユースホステル本来の魅力や価値を活かし、向上させるための取り組みを行います。

[事業分野別目標]

- 年間宿泊者数 : 30,500名 (22年度実績見込み : 19,006名)
- 年間学校団体利用数 : 90校 (" : 70校)
- 年間スポーツ団体利用数 : 65団体 (" : 47団体)

【年間宿泊者数】

期 間	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計	ベッド稼働率
2019年度実績	10,227名	9,034名	9,315名	4,723名	33,299名	53.7%
2020年度実績	173名	1,451名	2,295名	1,647名	5,566名	9.0%
2021年度実績	411名	1,424名	4,653名	1,920名	8,408名	13.6%
2022年度見込	3,150名	4,410名	7,996名	3,450名	19,006名	30.6%
2023年度目標	7,700名	7,700名	8,800名	6,300名	30,500名	49.2%

[活動内容]

1. 団体宿泊利用回復のための取り組み

- ・ 従来顧客に対しての再訪喚起のPR: コロナ収束特典付きウエルカムバック案内
- ・ 新たな団体に対して各種団体の特性にあった滞在の楽しみやプログラム提供
 - a. スポーツ団体に向けて、大型バスの無料駐車や会場へのアクセス案内、スタミナ夕食の提供等による宿泊誘致
 - b. 旅する機会や利用可能施設に限られる障がいを持つ子ども達を通う特別支援学校や障がい者グループホーム等に向けて、減免制度を活用した宿泊案内や誘致
 - c. 合宿や研修等企業や塾、高校の部活動、大学ゼミに向けてリーダー室や集会室、焚火体験やBBQ場利用などをセットにした滞在パックによる宿泊誘致

- d.東洋のハリウッド太秦という地域性も活かしコスプレイヤーを対象とした撮影パックプラン等の提案による宿泊誘致
- e.インバウンド教育旅行向けに地元学生との交流などのマッチングやアレンジの再開
- f.京都で開催される国際会議や各種学会に参加する若手研究者の利用を開拓するための情報収集や発信、利用ニーズに沿った滞在プラン等の提示

2. 個人の宿泊利用回復のための取り組み

- ・ 京都市民向け宿泊キャンペーンの展開や口コミによる利用促進
- ・ 家族だけでなく3世代や親戚集まりのニーズに応える利用促進
- ・ 平日の宿泊利用誘致を念頭に未就学児を含む若夫婦親子宿泊キャンペーンの実施
- ・ 顧客管理システムの活用によるサンキューレターやDM案内によるリピート顧客の獲得

3. 青少年に向けての活動場所や課題解決に寄り添う宿泊事業の展開

- ・ 経済格差による学習機会の低下やヤングケアラー等社会課題に取り組む中間支援組織との連携による宿泊企画の実施
- ・ 国際ユースホステル連盟(Hostelling International)で取り組む「より良い未来を作るために、私たちに何が出来るか」を考えるイベント”Say Hi for Peace”に沿った旅に出る機会に恵まれない子ども達への事業実施のための寄付やプログラム企画の継続
- ・ 地元支援学校や中学生の就労・社会体験実習機会の提供

4. 地域の魅力を活かした観光と交流事業の展開

- ・ 宇多野地域にある「君が代」発祥の地とも言われる「さざれ石山」及び御堂ヶ池1号墳をはじめ数多くの史跡旧跡等地域の宝を知ってもらう為の取り組み(ツアーや紹介)を地域の研究者や地元有志と連携して実施
- ・ 地元地域の物産を扱い地域との交流を図ったマーケットとワークショップ「うたのユース OpenDay」の継続実施
- ・ 京都の歴史や文化を学ぶ「百人一首」連続講座&体験会の継続実施
- ・ 歩いて楽しい宇多野ユースホステル周辺マップの整備とPR、活用

5. 京都市との運営の在り方についての協議の継続

- ・ 急激な物価上昇が続く中で、宿泊費の上限設定や集会室使用料の改訂についての継続的な協議や働きかけ
- ・ 効率的な運営向上のための臨時休館の設定やキャンセル料規定の整備
- ・ 担当室との運営課題の解決や将来的な展望を描くための協議の場づくり

事業活動) III. ユースホステル関連活動 (食堂・物販)

ユースホステル関連活動の柱となる食堂部門では、以前より個人旅行者の泊食分離の傾向が見られましたが、コロナ禍を経て益々旅行のスタイルや楽しみ方の多様化が進み、インバウンドが再開されれば更に加速すると考えられます。また、食材価格の高騰といった課題も起こってきています。

こうした状況に対応するために、まずは現状の価格を改定し4月1日から値上げを行います。あわせて地域の特色ある食材やワールドワイドなメニューを取り入れ、料理の内容の見直しや質の向上を図り、価格以上の価値を感じてもらえる食事提供を目指します。

また、物品販売やサービス事業においても、ユースホステル内でここだからできる体験型企画や環境に負荷のかからない旅のアクセスとしてのレンタサイクルやシェアサイクルの更なる活用、電動アシスト自転車や電動キックボードの導入など、ニッチな層に響く付加価値やニーズのあるセットプランの提供などに取り組みます。

[事業分野別目標]

- 年間食事提供数：夕食 17,000 食／摂取率 55.7%
(22 年度実績見込み：12,680 食／摂取率：66.7%)
- 朝食 25,500 食／摂取率 83.6%
(22 年度実績見込み：15,426 食／摂取率：81.2%)

夕食数	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計	摂取率
2019 年度実績	6,657 食	4,249 食	6,493 食	1,653 食	19,052 食	57.2%
2020 年度実績	57 食	631 食	1,287 食	704 食	2,679 食	48.1%
2021 年度実績	170 食	866 食	3,379 食	948 食	5,363 食	64.0%
2022 年度見込	1,815 食	2,638 食	6,002 食	2,225 食	12,680 食	66.7%
2023 年度目標	2,638 食	3,500 食	6,100 食	2,500 食	17,000 食	55.7%

朝食数	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	合計	摂取率
2019 年度実績	9,022 食	7,169 食	8,239 食	2,372 食	26,802 食	80.5%
2020 年度実績	101 食	1,001 食	1,626 食	997 食	3,725 食	66.9%
2021 年度実績	233 食	1,043 食	3,999 食	1,311 食	6,586 食	78.6%
2022 年度見込	2,504 食	3,292 食	6,865 食	2,765 食	15,426 食	81.2%
2023 年度目標	6,780 食	6,140 食	7,780 食	4,800 食	25,500 食	83.6%

[活動内容]

1. 食事摂取数を上げる取り組み

- ・ 積極的な新しい食事メニュー開発と「宇多野ユースホステルの食事はおいしそう」と思ってもらえるよう話題提供のための小まめな情報更新や発信
- ・ 世界を味わうワールドディナーの継続による食の楽しみの演出
- ・ 特別メニュー時には宿泊者のみならず地域の方の日帰り利用の促進
- ・ 食物アレルギーやベジタリアン、ライトハラルや障がいをお持ちの方へのペースト食や刻み食の対応と PR

2. 更なる食堂運営の効率化

- ・ アフターコロナを見据えて一部メニューのブッフェスタイルへの変更による人件費の抑制
- ・ 少人数スタッフで回転させるオペレーションの工夫
- ・ 高騰する原材料費や消耗品を抑え汎用性が利くメニューの開発

3. 体験型企画や物品販売の充実

- ・ 焚火庵の継続とあわせて、更なるアウトドアや京都文化を体験するプランの開発
- ・ レンタサイクルやシェアサイクルを活用したおススメコースルートの作成、電動キックボードの導入検討
- ・ 世界の缶詰やスパイス、ドリップ珈琲など、世界の多様な食文化を感じる商品の販売

事業活動) IV. 天橋立ユースホステル (施設運営・食堂・物販)

1963年6月に開所した天橋立ユースホステルは、今年度築60年を迎えます。

宮津市が直営するユースホステルとしてスタートし、1980年代に京都ユースホステル協会への委託運営から指定管理施設としての運営へと移行し、2019年度より京都ユースホステル協会への施設の無償貸与によるユースホステル運営へと変わってまいりました。

そうした変遷の中で施設の老朽化が進むと共に、小人数での不規則勤務などによる労務管理や施設運営上の課題を抱えて施設運営を継続しております。

ただ、施設や設備の老朽化による故障や改修の発生時期等を見通すことは難しく、また現在の運営委託者との委託契約は、現運営委託者の都合等もあり2023年3月末で終了することになっております。そうした状況で今後の運営を継続するためには、新たな施設の運営委託者を見つけることが急務となっております。また、新たな施設運営を担っていただく方がない場合、施設の運営を終了することを考えざるを得ない状態を迎えておりました。

そうした中で、長期にわたる運営を行う為の施設の手直し等が見通せない他、現状の施設状況を改善するための一定の改修投資等を見込むプランの立案ができていないことから、現状の施設で運営が可能と考える1年単位での運営業務を担っていただく方を募ると共に、その間により長い期間での持続的な運営を可能にする取り組みやプラン作り等への協力者を募ってまいりました。

その中で、青少年の野外活動事業や野外施設の運営のノウハウを持つ団体が、天橋立ユースホステルの運営委託を前向きに検討し、新年度からの運営の為の条件や業務の引継ぎ等の具体的な手順について協議を重ねて、運営の準備を進めております。

2023年度は、この団体が持つ野外活動プログラムや宿泊体験事業等の運営ノウハウ、ボランティアや子供の会員組織などを活かした、丹後の自然や歴史、文化や海のプログラム等と宿泊を組み合わせることで事業や取り組みを展開することが可能となるなど、これまで以上に宿泊と地域での体験を一体化した運営を進め、地域の他の宿泊施設との差別化や付加価値の創造に取り組むことが可能となります。

こうした期間を活用し、地元の地域活性化の取り組みや魅力づくりを行う団体等とも連携しながら、より長い期間での京都北部の活動拠点を維持する新たな方策について、様々な支援制度の活用や京都府、宮津市をはじめ関係機関とも連携しながら検討を進めてまいります。

[事業分野別目標]

- 新たな運営者による施設運営の継続と活動団体と連携した魅力的な利用モデルの開拓
- 地域の取り組みと連携したより長い期間での施設運営が可能な再生プランの検討
- 京都府内のユースホステルで連携・協働したプログラムの実施
- 野外活動他の団体のニーズをくみ取った新たな施設利用層の開拓

事業活動) V. 組織運営 (総務)

2020年の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大以降、施設運営や事業活動において急激な変化を経験してきましたが、制限や制約のないウイズコロナの回復期になって以降は、新たな価値観や可能性に沿った組織運営が求められています。

現在まで取り組んできました“旅を通じた経験・体験による成長”というユースホステルのスピリットや特色を、ウイズコロナ/アフターコロナの時代にどのように具体化させて展開していくかについて、考え取り組んでいきます。

また同時に、従前のような健全な組織運営を回復することも重要な課題となっています。そのためにも、それぞれのスタッフが全体の中での担うべき役割や責任を再認識し、相互にサポートしつつ目標達成に向けて進むことができるように、労働環境の見直しや人材育成、取り組みや運営サポートを行います。

今年度から新たに始まる宇多野ユースホステルの指定管理運営に係わる協定内容には、これまでになかった運営上の懸念となる事項等が含まれ、将来への大きな不安や取り組みの制約となっています。そして、そのことにより人材育成やシステム導入といった計画的な投資を躊躇するほか、物価高騰などの課題への対応についても難しい環境に置かれております。

今後も責任ある施設運営を継続していくためにも、不安の解消や条件の見直しについて、引き続き京都市担当課と協議を継続してまいります。

[事業分野別目標]

- 今後の展望や方向性、事業活動の展開の検討
- 人材確保のための多様な働き方や賃金形態の検討
- 目標達成に向けて進むための労働環境の再整備
- 月次収支状況の速やかな共有
- 業務や作業手順の見直しによる効率化と施設運営や事業等の取り組みのサポート
- 責任ある施設運営のための運営条件の見直し協議の継続



予算概要

[予算概況]

2023年度の事業活動目標として、基幹事業である宇多野ユースホステルの宿泊実績を30,500名（対19年度比：91.6%）、宇多野ユースホステルの食事提供数を夕食17,000食（対19年度比：89.2%）、朝食25,500食（対19年度比：95.1%）と計画しております。

宇多野ユースホステルの施設運営ならびに食堂運営につきましては、コロナ禍での利用減少が続いた3年間は人員補充を見送り、最少人数での運営体制を敷いてきましたが、2023年度は利用回復の目標達成に向けて短時間勤務のスタッフ補充を計画しております。また、物価や原材料費、光熱水費の高騰も加味し、国内の営業活動費用も計上した事業予算としております。

その他、急激な物価等の高騰に対応するために宿泊利用や食事提供の回復に取り組み収益増を目指すとともに、当協会の裁量で改定することができる食事料金については、原価率上昇分相当額を現行料金に上乗せした料金改定を行います。

一方、条例により定められている施設使用料（宿泊費・集会室料・テニスコート料）については、2008年のリニューアル・オープン以降、消費税増税分のみ料金改定しか認められておりません。光熱水費や消耗品他の運営経費が急騰する中で、今後も快適な滞在やサービスの提供、多様化する地域のニーズに応えていくためにも、引き続き施設使用料の改定について京都市担当課と交渉を続けていきます。

こうした取り組みを進める今年度の事業会計別の収支予算は、宇多野ユースホステル事業会計が▲6,608,000円（対22年度見込：23,615,220円）、食堂・物販事業会計が7,830,000円（対22年度見込：9,116,508円）を見込んでおり、全事業会計を合わせた当期予算の正味財産増減額は1,035,000円、正味財産期末残高は44,150,228円を見込んでおります。

〔経営実績の推移〕

	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度見込	23年度予算
経常収益（売上）	195,286,399	101,433,357	95,289,810	120,743,485	179,812,000
ユースホテル活動及び関連活動	55,006,688	16,595,670	31,639,084	36,836,190	57,319,000
指定管理業務及び YH 運営	131,250,648	75,284,079	55,633,992	75,202,685	114,636,000
組織運營業務	9,029,063	9,553,608	8,016,734	8,704,610	7,857,000
経常費用（費用）	187,225,738	116,117,535	105,938,254	152,414,489	178,777,000
ユースホテル活動及び関連活動	50,501,462	19,842,037	24,168,098	38,428,500	49,679,000
指定管理業務及び YH 運営	129,376,348	89,241,288	74,595,559	105,425,905	121,244,000
組織運營業務	7,347,928	7,034,210	7,174,597	8,560,084	7,854,000
当期経常増減額（経常利益）	8,060,661	▲14,684,178	▲10,648,444	▲31,671,004	1,035,000
経常外増減額（経常外利益）	0	0	▲9,311	0	0
当期正味財産増減額（純利益）	8,060,661	▲14,684,178	▲10,657,755	▲31,671,004	1,035,000
正味財産期末残高	100,128,165	85,443,987	74,786,232	43,115,228	44,150,228

（内、公益目的事業）

2022年度末をもって、2011年度の法人移行時に引継いだ公益目的財産（56,453,806円）は償却が終了する見込みです。

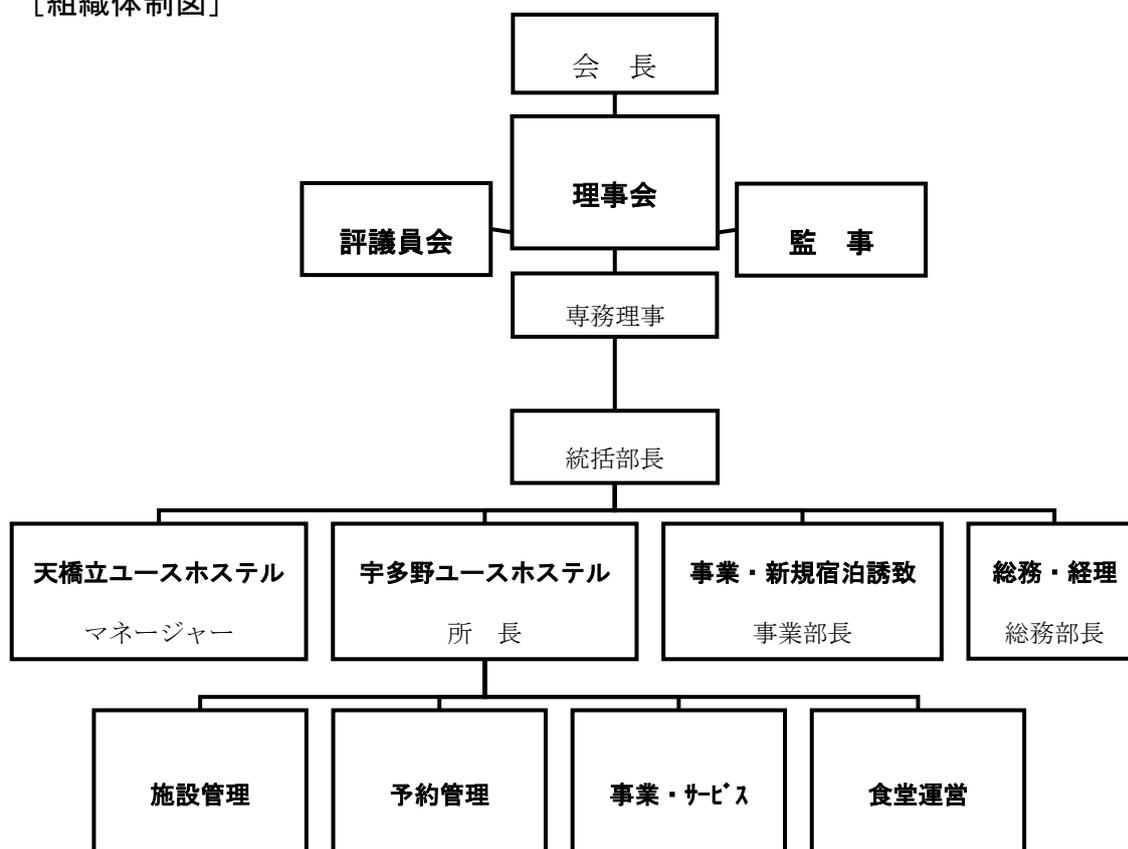
	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度見込
公益目的財産額（期首）	38,829,226	39,392,752	23,082,137	3,027,016
公益目的収支額	563,526	▲16,310,615	▲20,055,121	▲31,452,151
公益目的財産額（期末）	39,392,752	23,082,137	3,027,016	0

組織概要

[組織]

現状を打開するために枠を超えた協働と新たな取り組みに挑戦し、ピンチをチャンスに変え、組織と個人の更なる成長と実績回復を目指します。

[組織体制図]



[協会役職員数]

評議員：8名、理事：8名、監事：2名、職員：21名（アルバイト・パート含む）

[協会名]	一般財団法人 京都ユースホステル協会
[代表者の役職氏名]	会長 堀場 厚
[財団設立]	1968年2月12日 ※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
[協会所在地]	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
[電話番号]	075-462-2312（代表）